

## (6) アスファルト合材

### 新潟県

記事提供：新潟県アスファルト合材協会

新潟県に於ける、平成29年1月～3月期の合材出荷数量は、前年同期比85%と大幅な減少となり、約31,000トンを少ない179,500トンとなった。この要因は、上・中越地区及び佐渡地区では前年並みの出荷量を確保できたものの、最大市場である下越地区の舗装工事が例年に比べて減少し、合材需要が大きく落ち込んだためと思われる。

地区別では、下越地区は合材需要の低迷が長引き、単月ではすべての月において前年を下回り前年同期比79%120,700トンとなった。中越地区は、降雪の影響が大きい中で1月、2月は前年を上まわったものの3月の低迷が影響し前年同期比96%36,600トン。上越地区は、2月、3月と前年を上回り期全体では前年同期比119%16,300トン。佐渡地区は、3月出荷が前年を上回ったことから前年同期比110%5,900トンとなった。

今年度通期の合材数量は、中越地区を除き官民共に舗装工事が低調なまま推移したものと思われ、前年対比93%（81,500トン減）の1,136,900トンと3期連続前年割れとなった。

新年度の動向は、公共事業はほぼ前年度並みの予算規模であり、被災地の復旧・復興、防災・減災、老朽化対策、地方創生等に重点配分される。しかし、民間設備投資を含めて舗装工事がどの程度発注されるのか不透明であり、合材需要が大きく増加するとは考えにくい状況である。

また、主要資材であるストアス・重油等油脂類の価格は上昇しており、合材数量の減少とも相俟って製造コストが上昇し、工場運営は厳しい状況が続くものと思われる。

### 富山県

記事提供：富山県アスファルト合材協会

富山県における平成28年度1月～3月期、出荷状況は、県計で91万1千tで前年同期と比べ6%の減となった。地区別でみると東部地区が5万2千tで前年同期と比べ2%減で、西部地区が3万9千tで前年同期と比べ11%の減となった。

東部地区、西部地区ともに国土交通省の工事が少なく、県、市町村の工事でも減少してきた。

東部、西部地区ともに合材運搬のダンプ不足はないが骨材の供給不足で困窮した。新年度は全県内で工事量の期待は薄い。

### 石川県

記事提供：石川県アスファルト合材協会

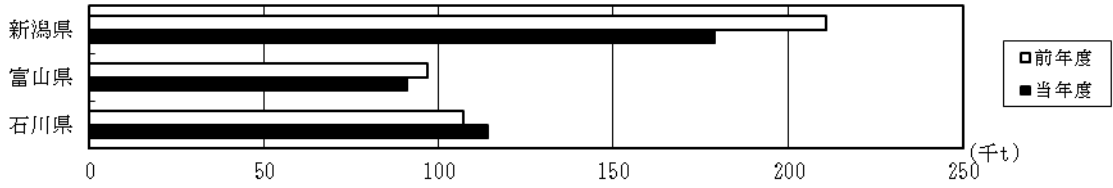
石川県における平成29年1月～3月期の出荷は、加賀地区は前年比微増、能登地区は前年比微減となった。

年間合計では最低出荷量となった昨年とほぼ同様の45万トンとなった。特に官需要の落ち込みが大きく、

大型商業施設や工場新築などで微増している民間需要もこれを補うには至らない結果となっている。

原価面でも本格化しつつある新幹線工事に引張られる形で資材価格や運搬費が上昇傾向となっており、昨年度から続く需要減と原価増のダブルパンチの状況は更に悪化することが予想される。

### アスファルト合材出荷量の推移(1月～3月期)



(単位：千  
t、%)

県	地区	平成27年度	平成28年度				累計
		年計	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
新潟県	上越	▲18 175	▲31 36	▲6 48	3 60	14 16	▲9 160
	中越	▲8 348	▲3 83	17 110	3 134	▲3 37	5 364
	下越	▲9 667	▲7 123	▲14 149	▲7 193	▲22 120	▲12 585
	佐渡	▲39 28	▲29 5	0 6	▲10 9	20 6	▲7 26
	県計	▲11 1,218	▲11 247	▲3 313	▲2 396	▲15 179	▲7 1,135
富山県	東部	▲16 316	▲27 62	▲9 79	0 91	▲2 52	▲10 284
	西部	▲19 257	▲45 37	▲26 57	9 75	▲11 39	▲19 208
	県計	▲18 573	▲35 99	▲17 136	4 166	▲6 91	▲14 492
石川県	加賀	▲17 343	▲17 65	▲7 83	20 118	10 86	3 352
	能登	▲31 107	▲18 18	▲4 26	7 31	▲3 28	▲4 103
	県計	▲21 450	▲18 82	▲6 109	17 149	7 114	1 454

(注)・上段は前年同期との比較

・集計は、新潟県

会員 32 社のうち 32 社

富山県

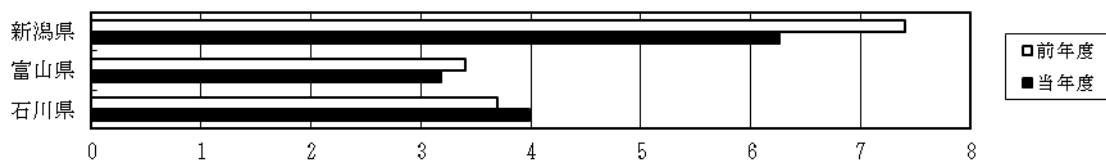
会員 14 社のうち 14 社

石川県

会員 18 社のうち 12 工場分

## ◎参 考 資 料

### アスファルト出荷量の推移（1月～3月期）



(単位：千t、%)

県	地 区	平成27年度 年 計	平成28年度				累 計
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
新 潟 県	上 越	▲18 6.1	▲31 1.3	▲ 6 1.7	3 2.1	14 0.6	▲ 9 5.6
	中 越	▲ 8 12.2	▲ 3 2.9	17 3.9	3 4.7	▲ 3 1.3	5 12.7
	下 越	▲ 9 23.3	▲ 7 4.3	▲14 5.2	▲ 7 6.8	▲22 4.2	▲12 20.5
	佐 渡	▲39 1.0	▲29 0.2	0 0.2	▲10 0.3	20 0.2	▲ 7 0.9
	県 計	▲11 42.6	▲11 8.6	▲ 3 11.0	▲ 2 13.9	▲15 6.3	▲ 7 39.7
富 山 県	東 部	▲16 11.1	▲27 2.2	▲ 9 2.8	0 3.2	▲ 2 1.8	▲10 9.9
	西 部	▲19 9.0	▲45 1.3	▲26 2.0	9 2.6	▲11 1.4	▲19 7.3
	県 計	▲18 20.1	▲35 3.5	▲17 4.8	4 5.8	▲ 6 3.2	▲14 17.2
石 川 県	加 賀	▲17 12.0	▲13 2.3	▲ 7 2.9	20 4.1	10 3.0	3 12.3
	能 登	▲31 3.7	▲ 4 0.6	▲ 4 0.9	7 1.1	▲ 3 1.0	▲ 4 3.6
	県 計	▲21 15.8	▲17 2.9	▲ 6 3.8	17 5.2	7 4.0	1 15.9

(注)・上段は前年同期との比較

※特殊アスファルト合材等が含まれる全ての合材に対しての量

「アスファルト出荷量（千t）＝アスファルト合材量（千t）×3.5%」